



オリーブ

84 編は端書きに 指揮者によって。ギテイトにあわせて。コラの子の詩。賛歌 とあります。コラの子については 42 編に記しました。「涸れた谷で水を求める鹿」のように主を求めると歌いましたが、コラはモーセ、アロンの従兄弟にあたり、その子孫のレビ人です。全部で 11 の賛歌が詩編に収録されています。

84 編の主題は あなたのいますところ です。別の言葉で 主の庭(2) あなたの祭壇(4) あなたの家(5) と詩人は表現しています。詩人は どれほど愛されていることでしょうか。(2) 慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。(3) 命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。(3)と、全身全霊をもって、その場所がいかに慕わしいものであるかを訴えています。42 編でも感じますが、詩人はそこが命の源であると感じています。神がおられる場所は、神秘的

で、荘厳で、壮麗で、栄光に輝く神聖な場所であろうと誰でも想像します。ところが詩人は最も荘厳な場所である あなたの祭壇に、鳥は住みかを作り／つばめは巣をかけて、雛を置いています。(4) と、驚くような表現をしています。ツバメは民家の軒下の陰になるようなところに巣を作って、絶えず雛の餌をせわしげに運んでいますし、巣の下は糞だらけです。神の住まいとしては想像できないような表現です。これは最も小さな、弱いものが安全に守られる場所、命が誕生し、育つ場所ということを歌っているのでしょうか。詩人は小鳥のように無心です。そして詩人は いかに幸いなことでしょうか／あなたの家に住むことができるなら／まして、あなたを賛美することができるなら。(5) と、ツバメの親子のように、神の住まいで守られて、喜々と生きたいと願っているのです。

神の住まいのツバメはそれだけではなく、いかに幸いなことでしょうか／あなたによって勇気を出し／心に広い道を見ている人は。嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう。彼らはいよいよ力を増して進み／ついに、シオンで神にまみえるでしょう。(6,7,8) と、安全であれば、勇気を持てるし、他の者にも心を許し寛容である。嘆き、悲しむ苦難の時も、慰めを与えられ、潤う。そして、力強く羽ばたき、ついに顔と顔を合わせて神と出会うと歌っています。これは理想的な、希望的な思いですが、その祈りを詩人は祈り続けています。そして、神よ、わたしたちが盾とする人を御覧になり／あなたが油注がれた人を顧みてください。(10) と、王や、祭司として立ち、指導者として選ばれた者たちの為に執り成しの祈りを捧げています。

ツバメのような詩人は あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。主に逆らう者の天幕で長らえるよりは／わたしの神の家の門口に立っているのを選びます。(11) と賛美します。

『讃美歌 21』は 140「み神のすまいは」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-12-12> で 84 編をそのまま賛美しています。その外にも 3 曲関連讃美歌があります。

ジュネーブ詩編歌は、澁瀬としたピオラ・ダ・ガンバとオルガンの合奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=ysFUNFiGGDI&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=84>